

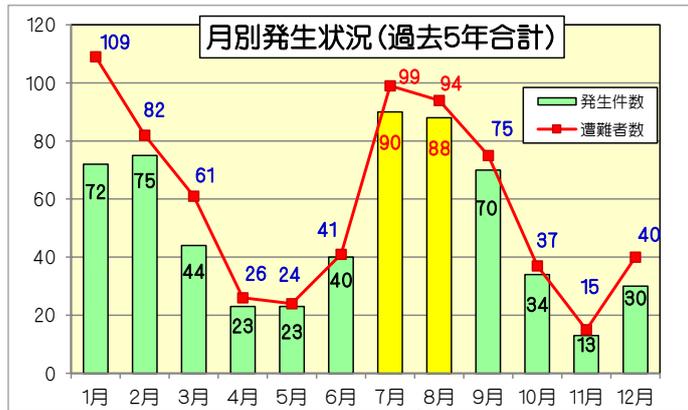
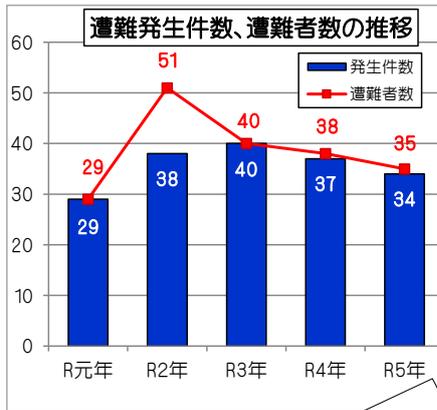
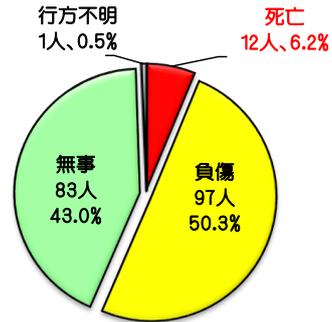
夏山シーズンにおける山岳遭難発生状況(北海道)

(夏山シーズンは、毎年7月から8月までの間)

夏山遭難発生状況(過去5年夏山シーズン)

	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	計
発生件数	29	38	40	37	34	178
遭難者数	29	51	40	38	35	193
死亡	4	3	1	0	4	12
負傷	16	16	25	23	17	97
無事	9	32	14	15	13	83
行方不明	0	0	0	0	1	1

遭難者の態様別(過去5年合計)



令和5年の夏山シーズンでは、34件の遭難が発生し35人が遭難しており、令和4年に比べ遭難発生件数が3件減少し、遭難者も3人減少しています。

過去5年間の道内の山岳遭難発生状況を月別で見ると、7月と8月に発生が多く、発生件数は2か月間で全体の約3割を占めています。

月別遭難発生件数(過去5年間)

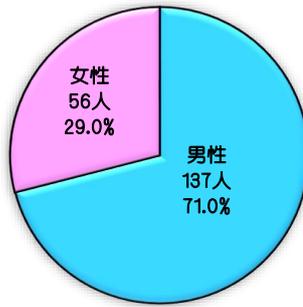
年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和元年	26	19	9	6	3	8	18	11	13	5	1	7	126
令和2年	10	15	7	1	1	5	15	23	8	5	6	3	99
令和3年	10	14	2	9	4	13	25	15	14	5	1	6	118
令和4年	9	10	6	5	5	7	19	18	22	3	4	7	115
令和5年	17	17	20	2	10	7	13	21	13	16	1	7	144
計	72	75	44	23	23	40	90	88	70	34	13	30	602

月別遭難者数(過去5年間)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和元年	41	20	11	6	3	8	18	11	14	6	1	7	146
令和2年	18	17	7	1	1	5	23	28	9	5	7	4	125
令和3年	11	15	2	12	4	14	25	15	14	5	1	9	127
令和4年	12	11	11	5	5	7	20	18	23	3	5	13	133
令和5年	27	19	30	2	11	7	13	22	15	18	1	7	172
計	109	82	61	26	24	41	99	94	75	37	15	40	703

□ 遭難者の男女別(過去5年夏山シーズン)

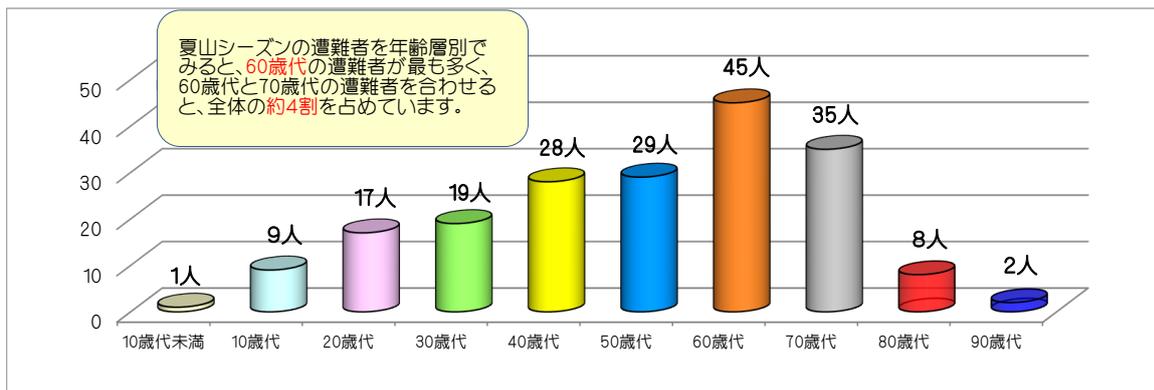
年	男性	女性	計
令和元年	23	6	29
令和2年	35	16	51
令和3年	24	16	40
令和4年	27	11	38
令和5年	28	7	35
計	137	56	193



夏山シーズンにおける遭難者の男女別を見てみると、男性の遭難者が約7割を占めています。

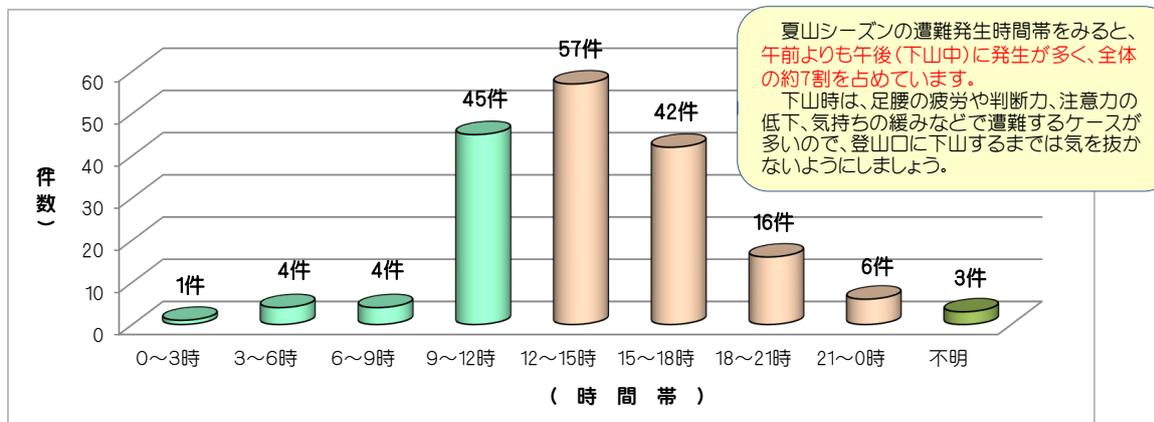
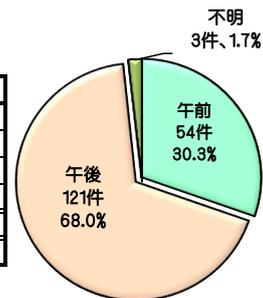
□ 遭難者の年齢層別(過去5年夏山シーズン)

年	10歳代未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	計
令和元年	0	1	1	2	3	5	8	8	1	0	29
令和2年	0	7	9	7	9	4	5	7	3	0	51
令和3年	0	1	3	5	8	5	11	6	1	0	40
令和4年	1	0	2	3	4	11	8	6	2	1	38
令和5年	0	0	2	2	4	4	13	8	1	1	35
計	1	9	17	19	28	29	45	35	8	2	193



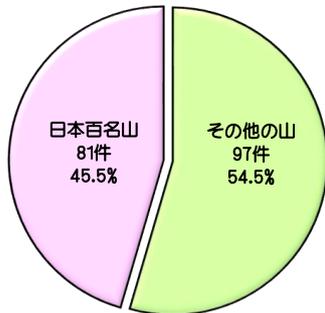
□ 遭難発生時間帯(過去5年夏山シーズン) ※件数

年	0~3時	3~6時	6~9時	9~12時	12~15時	15~18時	18~21時	21~0時	不明	計
令和元年	0	3	1	6	11	4	2	1	1	29
令和2年	0	1	0	12	6	10	6	2	1	33
令和3年	0	0	2	10	15	7	5	1	0	40
令和4年	1	0	1	7	12	14	0	2	0	37
令和5年	0	0	0	10	13	7	3	0	1	34
計	1	4	4	45	57	42	16	6	3	178



□ 北海道内の日本百名山(9山)遭難発生件数(過去5年夏山シーズン)

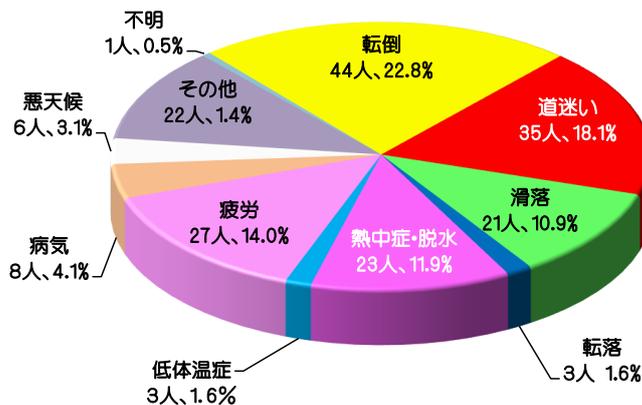
年	利尻山	幌尻岳	旭岳	トムラウシ山	十勝岳	羊蹄山	羅臼岳	斜里岳	雌阿寒岳	その他の山	合計
令和元年	1	0	1	3	0	2	0	2	1	19	29
令和2年	1	0	0	1	1	7	0	1	0	27	38
令和3年	5	1	1	1	1	5	3	3	3	17	40
令和4年	1	1	1	0	4	5	5	2	4	14	37
令和5年	0	4	4	0	0	2	0	2	2	20	34
計	8	6	7	5	6	21	8	10	10	97	178



7月、8月の夏山シーズンは、北海道では標高が高い山々の雪がなくなる季節で、日本百名山(9山)に登る登山者が多くなります。
 道内にある日本百名山(9山)のうち、登山道に火山灰や岩、小石が多い旭岳、トムラウシ山、利尻山は、足元が滑りやすく、転倒しないよう注意が必要です。
 昨年は、幌尻岳で4件の遭難が発生し、3人の方が亡くなっています。幌尻岳は、沢登りコースがあり、降雨による増水のほか、急斜面での滑落や転倒に注意が必要です。
 過去5年の夏山シーズンには、羊蹄山、斜里岳、雌阿寒岳でそれぞれ10件以上の山岳遭難が発生しており、特に、羊蹄山では、21件の山岳遭難が発生しています。

□ 遭難原因別発生人数(過去5年夏山シーズン) ※人数

年	転倒	道迷い	滑落	転落	熱中症・脱水	低体温症	疲労	病気	悪天候	その他	不明	計	その他の内訳
令和元年	8	5	5	0	1	0	6	2	0	2	0	29	装備不備、落石など
令和2年	5	9	4	2	5	1	8	0	3	14	0	51	ヒグマに襲われ負傷が2人
令和3年	11	5	6	0	9	1	4	0	2	2	0	40	急斜面の恐怖心、負傷が2人
令和4年	9	8	3	0	4	1	6	4	0	3	0	38	体力不足、やけどなど
令和5年	11	8	3	1	4	0	3	2	1	1	1	35	靴ずれ
計	44	35	21	3	23	3	27	8	6	22	1	193	



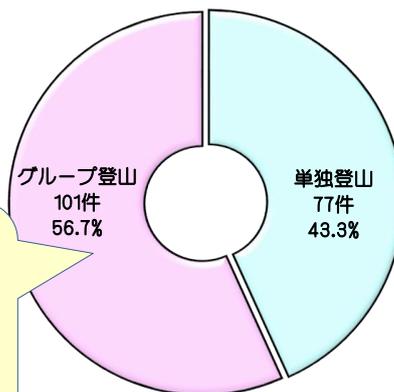
夏山シーズンの遭難原因上位

- 第1位 「転倒」(44人)
- 第2位 「道迷い」(35人)
- 第3位 「疲労」(27人)

下山時には、疲労や集中力の低下から、転倒して負傷したり、登山道を見失うことがあるので注意しましょう。

□ 遭難者の人数構成別(過去5年夏山シーズン) ※件数

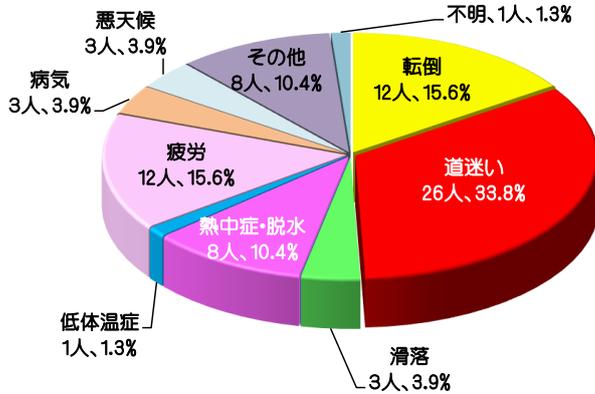
年	単独登山	グループ登山	計
令和元年	14	15	29
令和2年	16	22	38
令和3年	18	22	40
令和4年	12	25	37
令和5年	17	17	34
計	77	101	178



夏山シーズンにおける山岳遭難は、単独入山者よりも複数で行動するグループ登山における発生が多い傾向にあります。
 グループ登山は、複数で行動し、互いにフォローしながら登山するため、一見単独登山よりも安全に思われがちですが、自分の体力や体調に応じたペースで登ることが難しいため、無理をして登り続け、疲労のため転倒したり、体調を崩すなどの危険性があります。
 こまめな水分補給を行い、熱中症・脱水予防に努めましょう。

□ 単独登山における遭難原因別発生人数(過去5年夏山シーズン) ※人数

年	転倒	道迷い	滑落	転落	熱中症・脱水	低体温症	疲労	病気	悪天候	その他	不明	計
令和元年	3	4	1	0	0	0	3	1	0	2	0	14
令和2年	2	7	0	0	2	0	3	0	0	2	0	16
令和3年	1	5	2	0	4	0	2	0	2	2	0	18
令和4年	3	4	0	0	1	1	1	1	0	1	0	12
令和5年	3	6	0	0	1	0	3	1	1	1	1	17
計	12	26	3	0	8	1	12	3	3	8	1	77



単独登山は道迷いに注意！

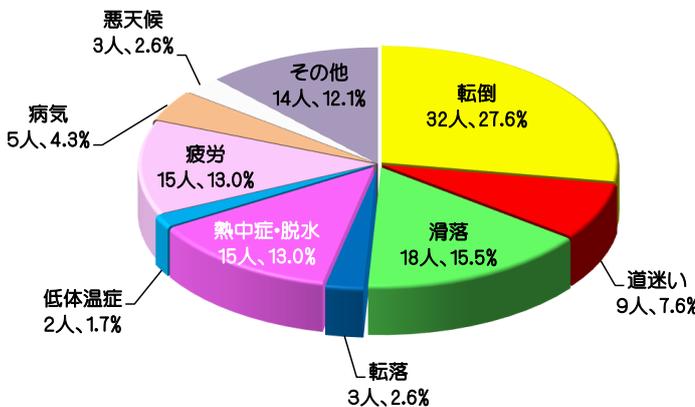


ハンディGPS

単独登山における遭難原因のうち、最も多いのは、「道迷い」です。単独登山では、不明瞭な登山道などにより下山方向を見失った時に、携帯電話が見つからないことにより、相談や通報ができず遭難する場合があります。ハンディーGPSやスマートフォンの登山用アプリを活用するなど、現在地をこまめに確認し、下山方向を誤らないようにしましょう。また、スマートフォンのバッテリー低下に備えて、モバイルバッテリーを携行することも、非常に有効です。登山届の提出や入山する山、行程などを家族などに伝えておくと、万が一遭難した際の手がかりとなります。

□ グループ登山における遭難原因別発生人数(過去5年夏山シーズン) ※人数

年	転倒	道迷い	滑落	転落	熱中症・脱水	低体温症	疲労	病気	悪天候	その他	不明	計
令和元年	5	1	4	0	1	0	3	1	0	0	0	15
令和2年	3	2	4	2	3	1	5	0	3	12	0	35
令和3年	10	0	4	0	5	1	2	0	0	0	0	22
令和4年	6	4	3	0	3	0	5	3	0	2	0	26
令和5年	8	2	3	1	3	0	0	1	0	0	0	18
計	32	9	18	3	15	2	15	5	3	14	0	116



転倒による負傷に注意！

グループ登山における遭難原因のうち、最も多いのは、「転倒」です。グループ登山では、参加者が他人のペースに合わせて行動するため、自身の体力を超えて無理をしてしまう場合があります。リーダーは、参加者の体力に応じた登山計画を立て、参加者の健康状態について常に気を配り、決して無理をさせることなく、場合によっては、途中で下山するなどの判断が必要です。